

6つのDomain of Competence ルーブリック

		A	B	C	D
主体性	1 主体性	自らの問題意識に即して課題を設定し、問題解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く継続的に取り組むことができる。	自らの問題意識に即して課題を設定し、問題解決に取り組むが、困難に直面するとひるんでしまう。	与えられた課題に対して、自ら問題解決の方法を考え、解決に向けて取り組むことができる。	与えられた課題に対しても、消極的であり、自ら問題解決に向けて行動することができない。
	協働	2 協働	問題解決に向けて、グループ内で役割を分担して行動するとともに、グループ全体の状況を把握し、自身の果たす役割を調整しながら行動することができる。	問題解決に向けて、グループ内で役割を分担して行動し、必要に応じて他のメンバーを支援することができる。	問題解決に向けて、グループ内で役割を分担して行動するが、自身の役割を果たすに留まっている。
議論	3 主張	自身の考えを、相手の認識や知識の程度に配慮して、論理的かつ適切な表現によって説明することができる。	自身の考えを、論理展開に注意し根拠を示して、分かりやすく説明することができる。	自身の考えを伝えようとするが、説明不足や論理の飛躍により、論旨を明確にすることができない。	自身の考えを伝えようとするが、うまく言語化して説明することができない。
	4 傾聴	自身の考え方との違いに注意し、必要に応じて質問を投げかけながら、他者の意見の正確な理解に努めることができる。	自身の考え方との違いに注意しながら、他者の意見の理解に努めることができる。	他者の意見に耳を傾けるが、自身の認識の枠組みから抜け出すことができない。	自身の考え方にこだわってしまい、他者の意見に耳を傾けることができない。
	5 昇華	提示された様々な意見の共通点や相違点を整理し、それらの意見を統合して、より良い問題解決の方法に至ることができる。	提示された意見を踏まえて、より良い問題解決の方法を模索することができる。	提示された意見の中から良いものを選択しようとするが、それらを越えたより良い問題解決の方法を模索することはしない。	それぞれの意見をただ提示するに留まっている。
思考力	6 論理的思考	ある問題について、多角的な視点で捉え、論理的かつ客観的な思考により解決に至ることができる。	ある問題について、論理的な思考により解決に至ろうとするが、客観性に欠けるところがある。	ある問題について、論理的な思考により解決に至ろうとするが、論理に飛躍や破綻が見られる。	ある問題について、論理的に推論を行うことができない。
	7 批判的思考	提示された事柄を、鵜呑みにせず批判的に捉えることを通して、問題の本質に迫ることができる。	提示された事柄を、鵜呑みにせず批判的に捉えることができるが、問題となる論点を明確にするには至らない。	提示された事柄を、鵜呑みにせず批判的に捉えようとするが、問題点をみつけることができない。	提示された事柄を、鵜呑みにし、安易に事実として受け入れてしまう。
メタ認知	8 自己認識	自身の認知の歪みや偏りの性質を理解し、必要に応じて修正することができる。	自身の認知に歪みや偏りがあることを自覚し、それがどのような性質であるかを理解している。	自身の認知に歪みや偏りがあることを自覚している。	自身の認知には歪みや偏りがないと考えている。
	9 状況認識	自身の置かれた状況を客観的に捉え、それを踏まえて適切にふるまうことができる。	自身の置かれた状況を客観的に捉えることができる。	自身の置かれた状況を客観的に捉えようとしているが、認識が不十分である。	自身の置かれた状況を客観的に捉えることができない。
感性	10 知的好奇心	見聞きする現象について、不思議を感じ、抱いた疑問に対して自分なりの仮説を立てることができる。	見聞きする現象について、当然視することなく、なぜそのようなことが起こるのか、不思議に感じることができる。	見聞きする現象に対して興味を持ち、注目することができる。	見聞きする現象に注意を払うことなく、やり過ぎてしまう。
	11 観察	眼前の事象を、先入観や偏見に囚われることなくありのままに観察し、新たな視点で捉えることができる。	眼前の事象を、先入観や偏見に囚われることなく観察しようとしているが、それらから脱しきれない。	眼前の事象に注視しているが、先入観や偏見に基づいて捉えている。	眼前の事象に注視することなく、先入観や偏見のままに安易に捉えている。
	12 身体知	言語には表れない感覚的な事柄を、自身の体験に基づいて実感として捉えることができる。	言語には表れない感覚的な事柄を、一定程度捉えられているが、自身の体験との結びつきが不十分である。	言語には表れない感覚的な事柄を、捉えようとしているが、それを裏打ちする実体験が不足している。	言語には表れない感覚的な事柄があることに思い至っていない。